

彩の歳時記

平成二十二年 七月

「星はすばる ひこぼし ゆふづつ よばひ星すこしをかし 尾だになからましばまいて」

枕草子 二三九段 清少納言【966～1025】



「星といえはすばる彦星、ゆふづつ宵の明星金星、流れ星もそれなりに趣があつて美しいが尾がなければもったいないのに」
ひこぼしの「彦」は男性の美称、「姫」は女性の美称。「ひこひめ」は対。「め」は「おとめ」、「こ」は「おのこ」の略。
千年前、平安時代にも人々は、空の星を見つづ、幻想的な物語を創りあげていました。
彦星が織姫に逢うために一年に一度、天の川を渡るといふ宇宙を舞台にした七夕物語は古代中国から伝わり、日本の妻問婚の風習が加味されたもの。七夕は宮廷行事として盛んに催され、万葉集に、132首も所収されるほどに多くの歌が詠まれました。

七月の異称

文月(ふみづき・ふづき) 短冊に字を書き、書の上達を願った七夕行事に因み「文披月」が転じた。

七月の暦

- 一日 山開き 昔、聖地である山に登る事は信仰行事であった為、一定の期間は入山できず、その禁を解くことを山開きといった。富士山など神社が関わっている山で行われる。
- 二日 半夏生 半夏生(はんげしょう)が生える時期。田植した稲が蛸の足のように大地に根を張ることから、蛸を食べる習慣がある地方もある
- 六く八日 朝顔市 入谷鬼子母神 朝顔は奈良時代、遣唐使によって伝来したと言われる。当時、朝顔の種子は下剤用の漢方薬として珍重され、今のように鑑賞用となったのは江戸時代。

七日

小暑【二十四節気】梅雨が明け、暑さも本格的に。この頃、暑中見舞いを書き始める。

七夕

川に機織棚を作り、盆に戻る祖先の霊の為、布を織る女性の事を



「棚機つ女(たなばたつめ)」「つ」は「の」と呼んだ事が「たなばた」の由来。
日本三大七夕祭に「仙台七夕(宮城県) 平塚七夕(神奈川県) 安城七夕(愛知県)。
ゆかたの日 日本ゆかた連合会が昭和五十六年(1981)に制定。七夕の日、女の子は色糸を結び、七本の針を並べ、瓜を供えて祭り祈ったという中国の故事に因む。



九く十日

鬼灯市(浅草寺) この日、観音詣をすると四万六千日分の功德が得られると参拜者で賑う。

十一日

第二十二回参議院選挙 参議院議員の任期は六年で解散がなく三年ごとに半数を改選する。

十五日

お盆・盂蘭盆会 祖先の霊を供養する行事。牛や馬を模った胡瓜や茄子を供える。

十七日

京都祇園祭 ハイライトの山鉾巡行。祭事が一ヶ月にわたる大規模な祭事で有名。

二十日

海の日 国民の祝日 世界で『海の日』を祝日としているのは日本だけ。

二十三日

大暑【二十四節気】この日から立秋までが名実ともに暑さの盛り。

二十六日

土用丑の日 鰻を食する習慣は平賀源内【1728～1780】の発案とか。

七月の歌

さとうきび畑 詞・曲 寺島尚彦【1930～2004】

1964年、寺島が石井好子【1922～】の伴奏者として本土復帰前の沖縄を訪れた際、第二次大戦末期の沖縄戦で戦死した人々が眠る摩文仁の丘を観光して着想、昭和四十二年(1967)沖縄返還の五年前に作られた作品。

夏のさとうきび畑に流れる風の音が繰り返される。全部で十一連からなり、通して歌うと十一分近く要する。声高な反戦歌ではなく静かな反戦メッセーじが、ひたひたと伝わって来る。森山良子、ちあきなおみ、新垣勉等が歌唱。長く歌い継がれるであろうし、歌い継がなくてはならない歌。



ざわざわざわざわ
広いさとうきび畑は
ざわざわざわざわ
風が通ぬけるだけ
今日も見渡すかぎり
みどりの波がうねる
夏の陽ざしのなかで
ざわざわざわざわ
広いさとうきび畑は
ざわざわざわざわ
昔 海のむこうから
いくさやうってきた
夏の陽ざしのなかで
ざわざわざわざわ